

## 都留市地域公共交通活性化協議会 第2回会議録

日 時：平成23年11月15日（火）10：00～11：30

場 所：都留市役所 3階 大会議室

委員出席者：奈良泰史委員、石合廣幸委員、相川義美委員、八代直之委員、小宮正廣委員、村松正美委員、泉静男委員（代理 望月氏）、大柴節美委員、篠原勇委員、三浦政秀委員、矢嶋進委員、長谷川氏（県交通政策課）、奥脇氏（富士急山梨ハイヤー(株)）

幹事出席者：中村平幹事、金井啓二幹事、小俣光也幹事

事務局：高部剛政策形成課長、紫村聡仁政策形成課長補佐

鬢櫛美咲企画担当リーダー、佐藤秀樹企画担当、河野淳企画担当

欠席者：北村忠義委員、天野友一委員、田中一利委員、高部知幸委員

### 1 開会

司会：高部政策形成課長

### 2 会長あいさつ（奈良会長）

今日の会議では、総合連携計画の策定と、そのための実態把握の方法について協議していただく。国からの補助金を受けることができるようこの協議会を立ち上げたが、無事に申請が通り、10月16日から実証運行を開始している。「初めてバスが通った」「引き続きこの路線を運行してほしい」という声もあれば、「駅までバスを通すべき」などの意見もいただいている。今年度中に計画を策定する。内容の協議をお願いします。

### 3 協議事項

#### （1）都留市地域公共交通総合連携計画の概要について

《参考資料1、資料1-1、資料1-2に沿って、事務局より説明》

#### ① 計画の骨子について

村松委員：名の通り、公共交通の「総合」的な計画であり、「連携」についても考えるものである。バスやタクシー、電車等、全てのものが対象となる。バスだけでなく、電車についても盛り込むかについてはっきりさせる必要がある。

篠原委員：バスやタクシー、電車の全てが連携した形で都留市をフィールドに実証運行している。計画についても、バスやタクシーだけでなく電車も入れてほしい。

事務局：鉄道部からお願いもいただいている。実証運行でも、電車との連携の場合は運

賃を100円にするという試みも始める。鉄道との連携についても対象としなければならないと思っているので、計画にも若干盛り込んでいく。

## ② アンケート内容について

小宮委員：アンケートの対象者について、利用者150人と書かれているが、利用していない人からはアンケートを取らないのか。

事務局：アンケート以外に、地域懇談会等、地域を回って意見をうかがうことを考えている。

村松委員：循環バスの調査は市で実施し、デマンド型乗合タクシーはコンサルが実施するとあるが、これはなぜか。

事務局：低炭素地域づくり面的対策推進事業との兼ね合いでこのようになっている。循環については、10月から11月の間、市の事業ではなく環境省の事業として運行し、その中でコンサルタントが調査するため、この間の調査結果を使えない。よって、同様の調査を実証実験の一環として実施する必要があるが、環境省の調査と同様の調査に対して同じくコンサルにお願いし税金を投入して実施することができないことから、市が直接実施する。

篠原委員：今回、鉄道についても計画の対象となったので、鉄道についてもアンケートを取ってほしい。また、鉄道、バス、タクシーの三位一体の計画はほかにはないと思う。事業者として頑張るので、ぜひやってほしい。

事務局：鉄道についてもやっていきたいと思う。協力してほしい。

村松委員：山梨では、鉄道の事が入った計画はないと思う。素晴らしいことであると思う。

議長：確認する。鉄道についても調査をすることとし、この案通り推進してよいか。

全員：良い。

## (2) スケジュールについて

《資料2に沿って、事務局より説明》

- ・2月のとりまとめを予定していたが、実証運行や補助金交付決定が遅れたことから期間がなくなってきた。
- ・会議についても、全6回としたい。

議長：事務局の提案通りで良いか。

全員：良い。

## (3) その他

小宮委員：鉄道との連携は非常に面白い。これについて、富士急行ではQスタ（富士山駅ビル）で使えるクーポン付の切符を販売しており、富士吉田市内ならただで往復する

ことができる計算になるようである。都留市にも拡大していただけないか考えてほしい。

#### 4 報告事項

##### (1) 地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付決定について

《資料3に沿って事務局より説明》

質問・意見 なし

##### (2) 都留市地域公共交通総合連携計画策定事業委託業務請負事業者について

《資料4に沿って事務局より説明》

質問・意見 なし

##### (3) 都留市地域公共交通実証運行実施状況について

《資料5に沿って事務局より説明》

篠原委員：利用者数について、当初心配していたが、自分達でもチラシを作り店においてもらうなど広報活動も展開した。循環バスの利用者はまだまだ少ないと思うが、乗ってもらっている。また、グループで乗る方々もおり、市民にも広がり始めていると思う。

三浦委員：デマンドについては、資料のとおりとなっており、盛里線については利用者もいる。しかし、東桂線については利用者数が伸びず苦戦している。

村松委員：今回の実証運行は、前段階がない中で始まっており、考える（乗車人数が少ないか多いかを分析する）尺度がないため、分析できないのが残念である。地域の機運を高めるように取り組んでほしい。複数の事業者と一体となってやっているのだから、これだけの結果になっていると思う。今後も、一緒に頑張ってもらいたい。また、乗車運賃一律100円が適当かについても今後考えるべきであると思う。

事務局：骨子の2ページに地域組織の整備を挙げている。なるべく身近なものとしてとらえてもらえるよう考え、実証運行は100円とした。今後、金額については考えていくと同時に、地域の人々の参加を呼び掛けていく。

八代委員：福祉タクシーの利用者が多いようであり、自分の身近でも利用者がある。これは、気軽に頼めて安いことが決め手のようである。これに対してバスは、回数（便数）が少ないためあまりあてにしていないようである。

村松委員：福祉タクシーについて、緑ナンバーの物については健常者が乗ることはできない。皆さんが利用しているのは白ナンバーのものであると思う。確かに、タクシーよりも安く乗れる人も多いため、利用者も多いと聞く。

相川委員：三吉地域では、谷村第二小学校の前にバス停を設置してほしいという声がある。

これは、宮原地区の方々からの声であるが、ここにバス停がないと宮原地区の方々  
非常に不便であるという。このほか、循環バスがわざわざ月待の湯を経由するため、  
近場に行くにも時間がかかることや、都留文科大学前駅周辺買い物に行く際に、買い  
物時間が30分程度しか取れずあわただしいといった意見も聞いている。

石合委員：子どもの利用実態について、事業者の方々に聞きたい。また、夏休みなどの長  
期休みにバスを使って部活に行くなど、バスを活用している生徒もいると聞く。

篠原委員：循環バスについては、子どもの利用は聞いていない。なお、高校生については、  
宝線で1名いたと聞いている。

三浦委員：デマンドタクシーについても、これまで子どもの利用はない。高校生について  
は1名利用したと報告を受けている。

泉委員代理：三吉の通学路について、当初はスクールゾーンであったが、現在この時間に  
バスが通れるようにしている。警察としては、事故防止を第一に考えてほしいと思っ  
ている。道が狭いため、市でも交差点の表示をはっきりさせることや、白線を改良す  
るなど、対策をとってほしい。

村松委員：公共交通のシステムを残す方向で頑張してほしい。都留市では、公共交通に対  
する熱が高まったが、このところ若干弱まっているようにも思う。全体で守っていく  
手法を考え、実際に運行するまでの間にうまく熱を冷まさないようにお願いしたい。

三浦委員：より進化したシステム（受付機械）について、研究している。私たちも頑張る  
ので、よろしく願います。

## 5 その他

小宮委員：都留市の公共交通の目的について、再度確認させてほしい。福祉目的のみか。

事務局：実証運行については、市民アンケートにて利用を望むと答えた層をターゲット  
に路線等を考えた。将来に向けては、ライフスタイル（意識面）についても変えてい  
くこととセットで考える必要があると思っている。

小宮委員：現在、乗っている方はどのような目的を持って乗っているか。

奈良委員：病院。また、思っていた以上に買い物も多かった。

小宮委員：市民の中に、バスはこれから先なくなってしまうというイメージがある。利用  
次第でこれからもバスが運転され続けることをPRしてほしい。

奈良委員：市としてもPRしていくが、委員の皆様についてもPRに協力してほしい。

## 6 閉会

(～11:32)